

エロ学園ラブ



おいしぃうどん

基本CG 10枚 差分込み総枚数 82枚































「忙しいのに、わざわざ来てくれてありがとう」
「えっ、この制服？」
「この学校……雛見沢分校のとき着てた制服」
「似合ってる……かな？」

「その…一度、学校でエッチしてみたくて」
「この学校通つてたときはするタイミングなくてさ」
「学校でエッチするの憧れてて」

ドキ

ドキ

ドキ



「今日は誰も来ないから……大丈夫だと思う」
「興宮の学校は休日忍び込んで、人いるから無理だよ」
「別に……そういう思い出とかはないけどさ」

ドキ

ドキ

ドキ



ドキ ドキ

ドキ
ドキ

「え…中出しづ？」
「…そうだね、来でもうつちやつたし」
「いいよ、今日…だけ」





あ
ハ

は
ハ

へ
ト
あ
な

す
ち
ゅ

マ
ッ

す
ち
ゅ

マ
ッ

マ
ッ

す
ち
ゅ

「違う……前に御宮と一緒に居たのは」
「んっ♥ 全然そういう関係じゃないから……」
「ほんと……はあんん♥……だから」
「セツクスしてるとき……言わないで♥」





トキ

てへる

あああ

ドンピシャ

ヒコ

「中出しされたのは初めてだよ♥」

「普通のエッチより気持ちいいね」



授業中





出し
OK!!
がんば
れ

「準備万端だよう」
「レナのところおまんこで」
「いっぱい気持ち良くなつてね」
「いつも魅いちゃん」と神社のここでしたてたもんね
「思い出全部、塗り替えてあげるからね」

グイッ

「んつ♥ 入つてきて……ぐつってなつて」
「おちんちんいっぱい気持ち良くなして」
「魅いちゃんのおまんこ……忘れさせてあける」
「好きだけ出していいからね♥」





「おちんちん！ おちんちん！」
「レナのおまんこの中で」
「ピクピクいってる!!」

「いっぱい出たね♥」
「明日もしようね♥」
「それとも……もうちょっとする？」
「うん、分かった」
「したくなつたらいつでも言つてね♥」
「大好き♥ だからね」



「今日は梨花に雑見沢をより気に入つて頂くための催しを用意しましたのよ」

「はあ……♡ ふう……♡」

「おクスリが効いているようですわね」
「それはどーしても気持ち良くなれるおクスリなんですわよ」
「もちろん、体に害がないことはわたくしで試してありますわ」
「雑見沢を出なくともこんなに楽しいことがあるって梨花に教えて差し上げますわ♡」



「ふう♥ ……まさかあなたがここまで品性下劣な人間だとは……んつ♥ 思わなかつたわ」
「は？」

「どうやら下品なのは……あ♥ その胸だけじゃなかつたみたいね」
「下品で品性に劣るのは梨花——あなたじやありませんこと?」
「なんの……んんつ♥ こと?」



「……まあいいですわ。きっとすべてが終わる頃には
梨花も考え方を変えてくれると信じていますもの」

「わたくしは梨花のことをとても大切に思っていますのよ」
「梨花はわたくしのことを見捨てるかもしれません
わたくしは決して見捨てませんのよ」
「辛いことも気持ちいいことも一緒に——ですわ」



「こんなの…いや」

「梨花、そんな顔をしてはいけませんのよ。
皆さん、忙しい時間を縫つてわたくしたちのために
集まつて下さったのですから」

「セックスは好きな人とするものでしょ？ 沙都子はそれでいいの？」

「わたくしは雑見沢を愛しておりますの
もちろん、住んでいる人もみんな愛しておりますわ
だから、これはとっても幸せなことでしてよ♥」

「皆さんのセックスはとっても優しいし
避妊だってちゃんととして下さいますのよ
何も心配なことなどございませんのよ
梨花はただ快楽を受け入れればいいだけです」

「それにメスの匂いをぶんぶんさせて
体中火照らせてトロトロのおまんこ晒しながら言つても
説得力が皆無で」といいますわよ
では皆さま、おまんこお願いいいたしますわ
わたくしと梨花をとつても気持ち良くして下さいませ♥」



「おクスリのおかげでとつても気持ちいいでじょう?
わたくし、梨花と同じ気持ちになれて幸せですわ」
「こんなの……こんなのおおお♡」

「んっ……ああああああ♡」
「やっぱり梨花は喘ぎ声もお上品ですね」
「はじめておまんこにおちんぽを入れて頂いた感覺はどうですか?」
「あっ……んん♡ いうん♡ こんなの……♡」

「梨花のためにみなさま一人一人に頑張って下さいましたのよ
数えきれないほどの射精をして頂けるなんてすこく恵まれていてよ
こんなに愛される女性は中々いませんでしたよ」
「ここまでして頂いて難見沢を出るなんて、まさか言いませんわよね?」
「でもわたくし、梨花に強制するつもりはこれつぼちもございませんのよ?」
「だから、もし――わたくしの言葉が本当に梨花の心に届いたのなら
あしたも同じ時間にここに来て下さいませ」
「また二人でいいっぱい気持ち良くていたたきましょう♥」



—翌日

「梨花、やはり来て下さいましたのね♪
わたくし、とても嬉しいですわ」

「……勘違いしないで、セックスをしに来ただけよ」

「でもそれって雫見沢から出ないって」と何か違ひがありますて?」

「私はこの村を出る。それに雫見沢じゃなくてもセックスはできるわ
「ふふふ、梨花は本当に強情ですわね
でも、わたくし絶対に諦めませんわ」



「梨花がセックスを気に入ってくれて嬉しいですわ」
「ちんぽの青田買いにまで参加してくれるなんて」
「離見沢にいれば、ずっとどういうことができるのですわよ」
普通、学校でこんなことをすることは難しいですわ」

「私は離見沢を出るわ。それは変わらない」
「でもやつていることと言つていることがあっていませんわよ」
「……私は両方とも手に入れる」

「……本当に梨花は頑固ですわね」
「まあ今日はちんぽの青田買いを楽しみますわよ」
「そうね、でもこのちんぽはあんまり好きじゃないわ」
ボクはもっと大きいのが好きなのです」
「苦しくなりそうな位おまんこぎゅうぎゅうになつて
重くて圧迫感があるのが好きなのです」

グニ

グニ

「梨花は本当にデカチンが好きですね」
「でももつと色々なものに目を向けて欲しいですわ
ちんぽには大きさだけでなく、それぞれ色々な良さがあるのですわよ」
「一つの価値観に縛られるのは良いことではありませんのよ」

「沙都子は顔で相手を選んでるくせに」

「……それは否定できませんけど」

「彼は顔も微妙だしんぽも微妙

もう終わりで次の人に試したほうがいいと思うのです」

「あつ!」
「勝手に射精しないで欲しいのです」

「……あれ、まだ射精しているのです」
「すごい量ですわね」
「おちんぽの脈動で足が押し返されるみたいなのです」

「次の人はずーメンまみれの足で足こきすることになってしましましたわね」

「……あつ!」
「勝手に射精しないで欲しいのです」
「次の人はずーメンまみれの足で足こきすることになってしましましたわね」

「量がすごいですわね」

「精液の臭いもすごくキツいのです」

「射精したのに……全然萎える様子、ありませんわね」

「このおちんぽ、どこまで射精できるのか試してみたくなったのです」

「そうですね、色々楽しめそうですね」

「……確かに一つの価値観に縛られるのは良くなかったかも知れないわね」

「あら、梨花、改心してくれましたの？」

「おちんぽに関してだけね」

「ふふふ、まだまだ先は長そうですわね♪」

ハロオオオオオオ

今日はデート楽しかったです
付き合ってくれてありがとうございます

お姉も酷いですね
興宮行つてそれつきりなんて
……寂しいですよね

胸気になります？

今日ブラジャー着けてないんですよ
この方が興奮してもらえるかなって思つて

……このあとエッチしますよね？



双子だから色々とお姉に近いと思いますよ
他の人より満足させられるんじやないかなあ

お姉が見たら後悔するくらいの
気持ちいいエッチができるらしいですね



私のおまんこじゅうですか？
お姉のより気持ちいいですか？



ふふふ
お姉が好きだつただけあつて
このちんぽ私にぴつたりですね
おまんこすごく気持ちいいです

おちんぽ奥まで来て
あああ～～～っ

心

そのリズム……つ
好き♥ おまんこ喜んでる！
出して♥ 中にザーメン下さい！





えつ……まだ続けるんですか？

射精したばっかりなのにいい
♥



ダメ♥ 私もイッてるの！
これ以上動かされたらあああ

ほんとほんとに
本気になつちゃうからあ























今日
カッkins
じよ



出し
OK!!
がんばれ















































